

表 7-1 地震による歩行低下からの回復と地震前の屋外歩行状況との関係 (1)
 - 非要介護認定者 -

経過 地震前の 屋外歩行	回復		回復 せず	回復率	最終的 非 回復者率
	回復の まま	雪で 再低下			
遠くへも一人で	87名 18.1%	55名 11.5%	72名 15.0%	142/214 =66.4%	72/1077 =6.7%
	142名				
近くであれば一人で	71 14.8%	62 12.9%	87 18.1%	133/220 =60.5%	87/426 =20.4%
	133名				
誰かと一緒にあれば	8 1.7%	6 1.3%	9 1.9%	14/23 =60.9%	9/34 =26.5%
	14名				
歩いていない	6 1.3%	6 1.3%	11 2.3%	12/23 =52.2%	11/40 =27.5%
	12名				
計	172 35.8%	129 26.9%	179 37.3%	301/480 =62.7%	179/1577 =11.4%
	301名				

表 7-2 地震による歩行低下からの回復と地震前の屋外歩行状況との関係 (2)
 - 要介護認定者 -

経過 地震前の 屋外歩行	回復		回復 せず	回復率	最終的 非 回復者率
	回復の まま	雪で 再低下			
遠くへも一人で	4名 3.9%	2名 2.0%	4名 3.9%	6/10 =60.0%	4/17 =23.5%
	6名				
近くであれば一人で	6 5.9%	17 16.7%	31 30.4%	23/54 =42.6%	31/78 =39.4%
	23名				
誰かと一緒にあれば	2 2.0%	0 0%	9 8.8%	2/11 =18.2%	9/12 =75.0%
	2名				
歩いていない	5 4.9%	2 2.0%	20 19.6%	7/27 =25.9%	20/47 =42.6%
	7名				
計	17 16.7%	21 20.6%	64 62.7%	38/102 =37.3%	64/154 =41.6%
	38名				

表 8-1 地震による歩行低下からの回復と地震前の屋内歩行状況との関係 (1)
 - 非要介護認定者 -

経過 地震前の 屋内歩行	回復		回復 せず	回復率	最終的 非 回復者率
	回復の まま	雪で 再低下			
なにもつかまらずに	141名 30.3%	102名 21.9%	138名 29.6%	243/381 =63.8%	138/1436 =9.6%
	243名				
つたい	16 3.4%	17 3.6%	29 6.2%	33/62 =53.2%	29/80 =36.3%
	33名				
誰かと一緒に	2 0.4%	3 0.6%	2 0.4%	5/7 =71.4%	2/9 =22.2%
	5名				
歩いていない	5 1.1%	3 0.6%	8 1.7%	8/16 =50.0%	8/22 =36.4%
	8名				
計	164 35.2%	125 26.8%	177 38.0%	289/466 =62.0%	177/1547 =11.4%
	289名				

表 8-2 地震による歩行低下からの回復と地震前の屋内歩行状況との関係 (2)
 - 要介護認定者 -

経過 地震前の 屋内歩行	回復		回復 せず	回復率	最終的 非 回復者率
	回復の まま	雪で 再低下			
なにもつかまらずに	9名 8.9%	14名 13.9%	14名 13.9%	23/37 =62.2%	14/64 =21.9%
	23名				
つたい	7 6.9%	7 6.9%	32 31.7%	14/46 =30.4%	32/60 =51.6%
	14名				
誰かと一緒に	0 0.0%	0 0.0%	3 3.0%	0/3 =0%	3/3 =100%
	0名				
歩いていない	1 1.0%	0 0.0%	14 13.9%	1/15 =6.7%	14/26 =53.8%
	1名				
計	17 16.8%	21 20.8%	63 62.4%	38/101 =37.6%	63/153 =41.2%
	38名				

D. 総括的考察

以上の分析結果は、我々が定義した「限定的自立」（自宅、その周辺、病院・施設などの限られた環境での自立）が、地震などの災害時における環境（物的・人的・社会的）の激変において、生活不活発病（廃用症候群）の発症を通じて生活機能の低下をきたしやすい大きなリスクファクターであり、いわば「潜在的な生活不活発病」の状態にあることを示すものである。

一方「普遍的自立」（日常的に遭遇するどのような環境下でも自立して行っている）の場合には、災害による生活機能の低下を全く受けないわけではないが、その影響ははるかに少ない。

これを実践的な立場、すなわち「災害発生直後に『災害による生活機能低下を最も起こしやすく、最も回復困難な人々』をいかに早くかつ的確に同定し、適切な予防的・回復的対応をとるか」、すなわち「災害時に生活機能低下を生じるハイリスク者の早期発見・早期対応」という角度からみると、できれば日頃から、少なくとも災害発生直後には、生活機能調査を行って、「自立」一般ではなく、「限定的自立」状態にあるものを同定することが大きな意義をもつということである。

いいかえれば、通常ハイリスク者と考えられやすい要介護認定者や身体障害者手帳所有者、また以前から病気を有していた人だけでなく、これまで特別な援助対象と考えられることの少なかった一応健康で元気な高齢者の中にもハイリスク者がおり、これらに対する対策が重要であることを意味している。すなわち災害前に一応健康で自立していても、「環境限定型自立」にとどまっている場合には、

ハイリスク者（「潜在的生活不活発病状態」として特別な対応が必要なのである。

E. 結論

新潟県中越地震被災高齢者の生活機能調査データから、一見健康で自立している高齢者においても、地震に伴う環境（物的・人的・社会的）の激変に伴う生活不活発病（廃用症候群）による生活機能低下、特に歩行・身の回り行為等の「活動」の低下がみられること、特にそれが地震前に「普遍的自立」であった者には軽度であるのに対し、「限定的自立」であった者でははるかに著しいこと、そして「限定的自立」者における低下率は「非自立」者と大差がないことが明らかとなった。

以上はICFにおける「活動」の評価点において、評価点0を「普遍的自立」とし、同1を「限定的自立」とすることの妥当性を、従来の検討とは異なる角度から証明したものとみることができる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 学会発表

- Ueda S, Okawa Y: The “Universal Independence” - the highest scale of the activity qualifier? WHO-FIC Network Meeting, 2005 Tokyo, Japan

生活機能調査に基づく身体障害等級規定の検討

主任研究者 仲村 英一 財団法人結核予防会 理事長

分担研究者 上田 敏 日本障害者リハビリテーション協会 顧問

大川 弥生 国立長寿医療センター 研究所 部長

研究要旨 身体障害者福祉法の等級規定には半世紀以上経過しているものが多く、少なくとも数十年が経過しているものがほとんどであるため、近年の医療技術の進歩や、障害に関する国内的・国際的な考え方の大きな変化と関連して、その再検討の必要が生じた。特に国際生活機能分類（ICF）という「共通言語」に立つことで、これに関する、データにもとづいた検討が可能であると考えられるに到った。

そのため全国の5自治体の在宅高齢者の実態調査による全19,946名の3種の活動（屋外歩行、自宅内歩行、セルフケア）に関するデータから、現行の障害等級規定の適切さおよび異なった障害種別間での同一等級において障害の程度が同一レベルにあるかどうかについての検討を行った。

その結果、肢体不自由と視覚障害においては障害等級規定に一定の適切さがあると考えられたが、他の障害種別においては疑問が残った。また異なる障害種別間の比較においては、同一の等級では肢体不自由がもっとも活動制限が重度であり、次いで視覚障害－聴覚障害－内部障害（呼吸機能障害、腎臓機能障害、心臓機能障害）の順に比較的軽度になっていくことを示唆するデータがえられた。その原因としては慢性疾患管理技術の進歩、熟練などが考えられ、今後の研究によってこの点が一層解明されることが必要と考えられる。

A. 研究目的

身体障害者福祉法が施行されたのが1949年であり、当時の対象であった視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由の等級規定はすでに半世紀以上が経過しており、その後に追加された心臓・腎臓・呼吸器等の内部障害についても、比較的最近の「ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害」を除けば、等級規定はすでに

約40年が経過している。

このような長い期間を経て、障害と障害者（障害のある人）に関する国内的・国際的な考え方や実際の施策内容、現実の生活の実態が大きく変化してきたなかで、これらの等級規定の適切さ、また各種の障害種別間での同一等級において障害の程度が同一レベルにあるかについて多くの疑問がなげかけられてきた。しかしこれまでは障害種別を超えて障害

の程度を測定する適切な手段がなかったこともあって、これらを実証的に検討することが行われてこなかった。

しかし、この点について、2001年に世界保健機構（WHO）総会によって採択された国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health、ICF）は、「共通言語」としてこのような役割を演ずる大きな可能性を持つものであり、これを適切にもちいれば同一障害内の等級規定の適切さや、異なった障害間の比較についての、データにもとづいた検討が可能であると考えられるに到った。

本研究班の目的である、①各種障害種別に共通する中核的評価基準を確立し、②あわせて各種障害特有の付加的評価基準を定める、ための出発点として、現行の障害認定法についての実証的な研究が必要となる。そのため本研究では、①ICFの基本的な考え方に立ち、②ICFの重要な項目についての実態調査を、③各種障害の多数例について行い、④その結果に立って上記の問題を検討することを目的とした。

なお身体障害だけでなく知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害などとの比較検討も当然必要であるが、まずもつとも歴史が古く、該当者の数も非常に多い身体障害者に限って検討し、他は今後の課題とすることとした。

また身体障害者は全年齢にわたっているが、近年は身体障害者の中で高齢者の割合が著しく増加していることから、調査の対象を65才以上に限ることとした。この年齢層の身体障害者には介護保険の対象となるものが少なくないため、要介護認定の有無をも調査し、

分析においてもそれを考慮した。

B. 研究方法

1. 対象

全国の5自治体における在宅高齢者（総計19,946名）についての生活機能調査データをもちいた。

これらの自治体は1つは首都近郊都市、1つは地方大都市近郊地、3つは地方小都市で農業や林業を行っている地域をも含んでいる。これらをあわせることで日本を代表するほぼ偏りのないサンプルを得ることができたと考えられる。

なお、この生活機能調査は「在宅高齢者に対する訪問リハビリテーションのプログラムとシステムに関する研究（H14-長寿-024：主任研究者；大川弥生）、「病棟・居室棟でのリハビリテーションと在宅自立支援に関する研究-WHO・ICFモデルに立った個別性重視の医療と介護の連携（H16-痴呆・骨折-018：主任研究者；大川弥生）、「生活機能向上にむけた介護予防サービスのあり方及び技術に関する研究-「廃用症候群（生活不活発病）モデル」を中心に（H17-長寿-043：主任研究者；大川弥生）」のデータを用いたものである。

2. 方法

ICFにもとづく生活機能調査を3自治体においては在宅高齢者全数調査として、2自治体においては無作為抽出法として行った。4自治体では郵送留め置き訪問回収で、他は郵送配布・郵送回収法で行った。

回収率は65.5%~99.9%の範囲にあり、5中4自治体において90%以上であった。

生活機能の各レベルについての総合的調査

を行ったが、多数の項目のうち基本的な「活動」であり、他の活動に大きな影響を与える基礎的なものである、移動（屋外歩行<a4602>と自宅内歩行<a4600>）とセルフケア<a510-a560>とを分析の対象とした。

（倫理面の配慮）

主任研究者の所属機関の倫理委員会にて審査を受け、研究の承認を受けた。また当該自治体の個人情報保護・管理等の規則に従い、本研究について自治体と主任研究者との間で協定書を締結している。

なお対象となる被検者についてはインフォームド・コンセントの原則に立って実施している。

C. 結果

1. 屋外歩行

表 1-1 に比較の目的で一般の高齢者（身体障害者手帳非所持者）16,856 名（要介護認定者 2,120 名を含む）についての調査結果を示した。

1) 各種障害毎の等級別比較

（1）肢体不自由

表 1-2-1-（1）、1-2-1-（2）に示すとおりで、まず非要介護認定者全体では、全体で「近くなら一人で」が 4 割強で最も多く、「遠くへも一人で」が 3 割弱でそれに次いでいた。

障害等級との関係で見ると、「遠くへも一人で」は等級数が増える（障害の程度が軽くなる）ほど著明に比率が高くなっていた。しかし 1 級と 2 級、3 級と 4 級、5 級と 6 級の比率はそれぞれかなり近く、逆に 2 級と 3 級の間、4 級と 5 級の間には大きなギャップがあった。このことは肢体不自由の等級は現行の 6 段階

よりも、大きく 1-2 級、3-4 級、5-6 級の 3 段階にまとめるほうが妥当性が高い可能性を示唆するものといえよう。

要介護認定者全体では「外は歩いていない」が最も多く、4 割弱を占め、「近くなら一人で」が 3 割弱でそれに次いでいた。等級との関係では、「遠くへも一人で」は全体に少ないが等級との関連が著明であり、また前記同様に 3 群にまとめることが適切なことを示唆していた。

（2）視覚障害

表 1-2-2-（1）、1-2-2-（2）に示すとおりで、非要介護認定者全体では「近くなら一人で」が最も多く約半数を占め、「遠くへも一人で」がそれに次いで 4 分の 1 弱であった。障害等級との関係は、1 級で「近くなら一人で」と「誰かと一緒に」が多く、比較的自立度の低いものが多かったが、他の等級についてはばらつきが多く、一定の傾向を見出すのは困難であった。

要介護認定者全体では「外は歩いてない」が最も多く約 4 割弱を占め、「誰かと一緒に」がそれに次いで 3 割強であった。例数の極めて少い等級を除けば障害等級との関係はかなりあきらかであった。

（3）聴覚障害

表 1-2-3-（1）に示すとおりで、非要介護認定者全体では「近くなら一人で」が最も多く約 4 割強を占め、「遠くへも一人で」がそれに次いでいた。等級との関係はほとんどみられなかった。

要介護認定者は例数が少ない（39 名）ため検討を省く。以下総数 50 名以下の場合と同様とする。

（4）呼吸機能障害

表 1-2-4-(1)に示すとおりで、非要介護認定者全体では「遠くへも一人で」と「近くなら一人で」が約 3.5 割と同じであった。等級との関係はほとんどみられなかった。

要介護認定者は例数が少ない(27名)ため検討を省く。

(5) 心臓機能障害

表 1-2-5-(1)、1-2-5-(2)に示すとおりで、非要介護認定者全体では「近くなら一人で」が最も多く 4 割強を占め、「遠くへも一人で」が 4 割弱でそれに次いでいた。等級との関係はほとんどみられなかった。

要介護認定者全体では「近くなら一人で」が最も多く、約 5 割弱を占め、「外は歩いていない」「誰かと一緒に」が 2 割前後でそれに続

いていた。等級との関係はかなり明らかで、1→3→4級と障害程度が低くなると共に屋外歩行自立度が高くなっていた。

(6) その他の障害

ぼうこう又は直腸機能障害(非要介護認定者 32名、要介護認定者 17名)、腎臓機能障害(非要介護認定者 42名、要介護認定者 22名)、平衡機能障害(非要介護認定者 2名)、音声・言語・そしゃく機能障害(非要介護認定者 7名、要介護認定者 3名)、肢体不自由にその他の障害が合併したもの(非要介護認定者 18名、要介護認定者 18名)、それ以外の複数障害の合併(非要介護認定者 13名、要介護認定者 8名)については、いずれも少数のため検討を省く。

表 1-1. 屋外歩行. 一般高齢者(身体障害者手帳非所持者)

	非要介護	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
遠くへも一人で	7,974 54.1%	83 14.8%	44 4.9%	16 3.9%	5 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	8,122 48.2%
近くなら一人で	4,940 33.5%	353 62.9%	425 47.3%	101 24.5%	8 7.7%	2 2.2%	0 0.0%	5,829 34.6%
誰かと一緒に	883 6.0%	51 9.1%	171 19.0%	107 25.9%	35 33.7%	22 24.4%	9 16.7%	1,278 7.6%
外は歩いていない	926 6.3%	74 13.2%	253 28.2%	182 44.1%	45 43.3%	31 34.4%	10 18.5%	1,521 9.0%
外は歩けない	13 0.1%	0 0.0%	5 0.6%	7 1.7%	11 10.6%	35 38.9%	35 64.8%	106 0.6%
計	14,736 100%	561 100%	898 100%	413 100%	104 100%	90 100%	54 100%	16,856 100%

表 1-2-1-(1). 屋外歩行: 肢体不自由, 等級比較 - 非要介護認定者 -

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
遠くへも一人で	1 2.2%	5 6.2%	30 24.6%	54 29.7%	45 47.4%	18 47.4%	153 27.2%
近くなら一人で	4 8.9%	41 50.6%	56 45.9%	89 48.9%	39 41.1%	16 42.1%	245 43.5%
誰かと一緒に	12 26.7%	18 22.2%	16 13.1%	15 8.2%	8 8.4%	1 2.6%	70 12.4%
外は歩いていない	22 48.9%	17 21.0%	18 14.8%	24 13.2%	3 3.2%	3 7.9%	87 15.5%
外は歩けない	6 13.3%	0 0.0%	2 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 1.4%
計	45 100%	81 100%	122 100%	182 100%	95 100%	38 100%	563 100%

表 1-2-1-(2). 屋外歩行: 肢体不自由, 等級比較 - 要介護認定者 -

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
遠くへも一人で	0 0.0%	0 0.0%	3 4.3%	2 2.4%	4 13.3%	2 16.7%	11 2.5%
近くなら一人で	4 4.1%	39 25.2%	29 42.0%	40 48.2%	10 33.3%	3 25.0%	125 28.0%
誰かと一緒に	10 10.2%	33 21.3%	18 26.1%	15 18.1%	3 10.0%	1 8.3%	80 17.9%
外は歩いていない	43 43.9%	58 37.4%	18 26.1%	23 27.7%	12 40.0%	5 41.7%	159 35.6%
外は歩けない	41 41.8%	25 16.1%	1 1.4%	3 3.6%	1 3.3%	1 8.3%	72 16.1%
計	98 100%	155 100%	69 100%	83 100%	30 100%	12 100%	447 100%

表 1-2-2-(1). 屋外歩行: 視覚障害, 等級比較 - 非要介護認定者 -

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
遠くへも一人で	5 15.6%	7 28.0%	2 12.5%	6 31.6%	5 38.5%	2 25.0%	27 23.9%
近くなら一人で	10 31.3%	15 60.0%	8 50.0%	11 57.9%	5 38.5%	5 62.5%	54 47.8%
誰かと一緒に	10 31.3%	0 0.0%	4 25.0%	2 10.5%	3 23.1%	1 12.5%	20 17.7%
外は歩いていない	7 21.9%	3 12.0%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 10.6%
計	32 100%	25 100%	16 100%	19 100%	13 100%	8 100%	113 100%

表 1-2-2-(2). 屋外歩行: 視覚障害, 等級比較 - 要介護認定者 -

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
遠くへも一人で	2 6.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.1%
近くなら一人で	4 12.1%	4 26.7%	2 40.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 50.0%	12 20.3%
誰かと一緒に	11 33.3%	3 20.0%	3 60.0%	1 33.3%	1 100%	0 0.0%	19 32.2%
外は歩いていない	13 39.4%	8 53.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	22 37.3%
外は歩けない	3 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.1%
計	33 100%	15 100%	5 100%	3 100%	1 100%	2 100%	59 100%

表 1-2-3-(1). 屋外歩行:聴覚障害, 等級比較—非要介護認定者—

	2 級	3 級	4 級	6 級	計
遠くへも一人で	17	5	18	23	63
	43.6%	35.7%	40.9%	43.4%	42.0%
近くなら一人で	17	7	20	21	65
	43.6%	50.0%	45.5%	39.6%	43.3%
誰かと一緒に	2	2	3	1	8
	5.1%	14.3%	6.8%	1.9%	5.3%
外は歩いていない	3	0	3	8	14
	7.7%	0.0%	6.8%	15.1%	9.3%
計	39	14	44	53	150
	100%	100%	100%	100%	100%

表 1-2-4-(1). 屋外歩行:呼吸機能障害, 等級比較—非要介護認定者—

	1 級	3 級	4 級	計
遠くへも一人で	8	11	16	35
	28.6%	28.2%	50.0%	35.4%
近くなら一人で	13	11	11	35
	46.4%	28.2%	34.4%	35.4%
誰かと一緒に	3	5	2	10
	10.7%	12.8%	6.3%	10.1%
外は歩いていない	4	12	3	19
	14.3%	30.8%	9.4%	19.2%
計	28	39	32	99
	100%	100%	100%	100%

表 1-2-5-(1). 屋外歩行:心臓機能障害, 等級比較—非要介護認定者—

	1 級	3 級	4 級	計
遠くへも一人で	39	25	18	82
	37.1%	36.2%	43.9%	38.1%
近くなら一人で	42	30	18	90
	40.0%	43.5%	43.9%	41.9%
誰かと一緒に	12	5	4	21
	11.4%	7.2%	9.8%	9.8%
外は歩いていない	12	9	1	22
	11.4%	13.0%	2.4%	10.2%
計	105	69	41	215
	100%	100%	100%	100%

表 1-2-5-(2). 屋外歩行:心臓機能障害, 等級比較—要介護認定者—

	1 級	3 級	4 級	計
遠くへも一人で	2	1	1	4
	5.1%	7.1%	12.5%	6.6%
近くなら一人で	15	8	6	29
	38.5%	57.1%	75.0%	47.5%
誰かと一緒に	9	3	0	12
	23.1%	21.4%	0.0%	19.7%
外は歩いていない	11	2	1	14
	28.2%	14.3%	12.5%	23.0%
外は歩けない	2	0	0	2
	5.1%	0.0%	0.0%	3.3%
計	39	14	8	61
	100%	100%	100%	100%

2) 同一等級についての各種障害間比較

(1) 1級

表 1-3-1-(1)に示すとおり、1級認定者（非要介護認定者）について各種障害を比較すると非常に興味深い結果が得られた。

すなわち肢体不自由では、「外は歩いていない」が最も多く、約半数を占め、「誰かと一緒に」が4分の1強でそれに続く。しかし視覚障害では「近くなら一人で」と「誰かと一緒に」とが共に約3分の1を占めて最も多い。そして呼吸機能障害では「近くなら一人で」が5割弱で最も多く、心臓機能障害と腎臓機能障害とではともに「遠くへも一人で」と「近くなら一人で」がほぼ同程度に多いが後者のほうがやや自立度が高い。すなわち肢体不自由、視覚障害、呼吸機能障害、腎臓機能障害、心臓機能障害、の順に、同じ1級でも屋外歩行の自立度が高く、明らかな障害差がある。

要介護認定者においては表 1-3-1(2)のようにややばらつきがあるが、1障害 20名以下のものを除いて検討すれば、肢体不自由で自立度が最も低く、視覚障害がそれに次ぎ、心臓機能障害がそれらよりよいという傾向はあきらかであり、非要介護認定者における結果とも一致している。

(2) 2級

2級では表 1-3-2-(1)の通り、非要介護認定者では肢体不自由と視覚障害で聴覚障害に比べ自立度が低い傾向があり、その傾向は表 1-3-2-(2)の要介護認定者ではより著明であった。

(3) 3級

3級では表 1-3-3-(1)にみるように、非要介護認定者では聴覚障害と心臓機能障害が肢体不自由や視覚障害よりも自立度が高い傾向が

あった。要介護認定者では肢体不自由以外は例数が20名以下であり一定の傾向を見出すことは困難であった。(表 1-3-3-(2))

(4) 4級-6級

4級では表 1-3-4-(1)にみるように、非要介護認定者ではこれまでと同様に肢体不自由と視覚障害よりも聴覚障害、呼吸機能障害、心臓機能障害が自立度が高いという傾向があるが、要介護認定者では肢体不自由以外の例数が少ないため一定の傾向を見出せなかった(表 1-3-4-(2))。

5級の非要介護認定者では肢体不自由以外は例数が少なく、一定の傾向を見出すことは困難であった(表 1-3-5-(1))。また要介護認定者では全体の例数が少なく(32名)検討を省いた。

6級の非要介護認定者では肢体不自由と聴覚障害以外は例数が少なくこの両者の間にも一定の傾向はなかった(表 1-3-6-(1))。また要介護認定者は例数が少なく(26名)、検討を省いた。

2. 自宅内歩行

表 2-1 に比較の目的で一般の高齢者（身体障害者手帳非所持者）16,883名（要介護認定者 2,122名を含む）についての調査結果を示した。

1) 各種障害毎の等級別比較

(1) 肢体不自由

表 2-2-1-(1)、2-2-2-(2)に示すとおりで、非要介護認定者全体では「何もつかまらずに」が最も多く約6割を占め、「壁や家具を伝わって」がそれに次いで3割弱であった。

表 1-3-1-(1). 屋外歩行:1 級, 障害別比較—非要介護認定者—

	肢体	視覚	呼吸	心臓	腎臓	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
遠くへも一人で	1 2.2%	5 15.6%	8 28.6%	39 37.1%	11 34.4%	1 16.7%	2 33.3%	67 26.4%
近くなら一人で	4 8.9%	10 31.3%	13 46.4%	42 40.0%	10 31.3%	2 33.3%	2 33.3%	83 32.7%
誰かと一緒に	12 26.7%	10 31.3%	3 10.7%	12 11.4%	6 18.8%	0 0.0%	1 16.7%	44 17.3%
外は歩いていない	22 48.9%	7 21.9%	4 14.3%	12 11.4%	5 15.6%	3 50.0%	1 16.7%	54 21.3%
外は歩けない	6 13.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 2.4%
計	45 100%	32 100%	28 100%	105 100%	32 100%	6 100%	6 100%	254 100%

表 1-3-1-(2). 屋外歩行:1 級, 障害別比較—要介護認定者—

	肢体	視覚	呼吸	心臓	ぼうこ う又は 直腸	腎臓	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
遠くへも一人で	0 0.0%	2 6.1%	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.9%
近くなら一人で	4 4.1%	4 12.1%	1 12.5%	15 38.5%	1 50.0%	4 20.0%	4 50.0%	1 25.0%	34 16.0%
誰かと一緒に	10 10.2%	11 33.3%	2 25.0%	9 23.1%	1 50.0%	8 40.0%	0 0.0%	1 25.0%	42 19.8%
外は歩いていない	43 43.9%	13 39.4%	5 62.5%	11 28.2%	0 0.0%	7 35.0%	4 50.0%	2 50.0%	85 40.1%
外は歩けない	41 41.8%	3 9.1%	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	47 22.2%
計	98 100%	33 100%	8 100%	39 100%	2 100%	20 100%	8 100%	4 100%	212 100%

表 1-3-2-(1). 屋外歩行:2 級, 障害別比較—非要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
遠くへも一人で	5 6.2%	7 28.0%	17 43.6%	1 50.0%	1 33.3%	31 20.7%
近くなら一人で	41 50.6%	15 60.0%	17 43.6%	1 50.0%	1 33.3%	75 50.0%
誰かと一緒に	18 22.2%	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	20 13.3%
外は歩いていない	17 21.0%	3 12.0%	3 7.7%	0 0.0%	1 33.3%	24 16.0%
計	81 100%	25 100%	39 100%	2 100%	3 100%	150 100%

表 1-3-2-(2). 屋外歩行:2 級, 障害別比較—要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	複数:		計
				肢体+	他	
近くなら一人で	39	4	4	2	2	49
	25.2%	26.7%	50.0%	33.3%	26.6%	
誰かと一緒に	33	3	2	2	2	40
	21.3%	20.0%	25.0%	33.3%	21.7%	
外は歩いていない	58	8	2	2	2	70
	37.4%	53.3%	25.0%	33.3%	38.0%	
外は歩けない	25	0	0	0	0	25
	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%	13.6%	
計	155	15	8	6	6	184
	100%	100%	100%	100%	100%	

表 1-3-3-(1). 屋外歩行:3 級, 障害別比較—非要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	呼吸	心臓	ぼうこう又は直腸	腎臓	音声・言語・そしゃく	複数:		計
									肢体+	その他	
遠くへも一人で	30	2	5	11	25	1	0	2	1	0	77
	24.6%	12.5%	35.7%	28.2%	36.2%	16.7%	0.0%	33.3%	25.0%	0.0%	27.1%
近くなら一人で	56	8	7	11	30	5	4	3	1	2	127
	45.9%	50.0%	50.0%	28.2%	43.5%	83.3%	80.0%	50.0%	25.0%	66.7%	44.7%
誰かと一緒に	16	4	2	5	5	0	0	1	1	0	34
	13.1%	25.0%	14.3%	12.8%	7.2%	0.0%	0.0%	16.7%	25.0%	0.0%	12.0%
外は歩いていない	18	2	0	12	9	0	1	0	1	1	44
	14.8%	12.5%	0.0%	30.8%	13.0%	0.0%	20.0%	0.0%	25.0%	33.3%	15.5%
外は歩けない	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
計	122	16	14	39	69	6	5	6	4	3	284
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 1-3-3-(2). 屋外歩行:3 級, 障害別比較—要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	呼吸	心臓	ぼうこう又は直腸	腎臓	平衡機能	音声・言語・そしゃく	複数:		計
										肢体+	その他	
遠くへも一人で	3	0	1	2	1	0	0	0	1	0	0	8
	4.3%	0.0%	14.3%	16.7%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	6.8%
近くなら一人で	29	2	1	5	8	0	1	1	2	0	0	49
	42.0%	40.0%	14.3%	41.7%	57.1%	0.0%	100%	50.0%	66.7%	0.0%	0.0%	41.9%
誰かと一緒に	18	3	2	1	3	1	0	1	0	0	0	29
	26.1%	60.0%	28.6%	8.3%	21.4%	100%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	24.8%
外は歩いていない	18	0	3	3	2	0	0	0	0	1	2	29
	26.1%	0.0%	42.9%	25.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	100%	24.8%
外は歩けない	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	1.4%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
計	69	5	7	12	14	1	1	2	3	1	2	117
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 1-3-4-(1). 屋外歩行:4 級, 障害別比較 - 非要介護認定者 -

	肢体	視覚	聴覚	呼吸	心臓	ぼうこ う又は 直腸	腎臓	音声・ 言語・ そしゃく	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
遠くへも一人で	54 29.7%	6 31.6%	18 40.9%	16 50.0%	18 43.9%	13 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	127 35.7%
近くなら一人で	89 48.9%	11 57.9%	20 45.5%	11 34.4%	18 43.9%	7 26.9%	3 60.0%	1 100%	3 60.0%	1 100%	164 46.1%
誰かと一緒に	15 8.2%	2 10.5%	3 6.8%	2 6.3%	4 9.8%	1 3.8%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	29 8.1%
外は歩いていない	24 13.2%	0 0.0%	3 6.8%	3 9.4%	1 2.4%	5 19.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	36 10.1%
計	182 100%	19 100%	44 100%	32 100%	41 100%	26 100%	5 100%	1 100%	5 100%	1 100%	356 100%

表 1-3-4-(2). 屋外歩行:4 級, 障害別比較 - 要介護認定者 -

	肢体	視覚	聴覚	呼吸	心臓	ぼうこ う又は 直腸	腎臓	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
遠くへも一人で	2 2.4%	1 33.3%	1 7.7%	1 14.3%	1 12.5%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 5.3%
近くなら一人で	40 48.2%	1 33.3%	3 23.1%	4 57.1%	6 75.0%	7 50.0%	1 100%	1 100%	0 0.0%	63 47.7%
誰かと一緒に	15 18.1%	1 33.3%	1 7.7%	1 14.3%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	21 15.9%
外は歩いていない	23 27.7%	0 0.0%	7 53.8%	1 14.3%	1 12.5%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	36 27.3%
外は歩けない	3 3.6%	0 0.0%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 3.8%
計	83 100%	3 100%	13 100%	7 100%	8 100%	14 100%	1 100%	1 100%	2 100%	132 100%

表 1-3-5-(1). 屋外歩行:5 級, 障害別比較 - 非要介護認定者 -

	肢体	視覚	計
遠くへも一人で	45 47.4%	5 38.5%	50 46.3%
近くなら一人で	39 41.1%	5 38.5%	44 40.7%
誰かと一緒に	8 8.4%	3 23.1%	11 10.2%
外は歩いていない	3 3.2%	0 0.0%	3 2.8%
計	95 100%	13 100%	108 100%

表 1-3-6-(1). 屋外歩行:6級, 障害別比較 - 非要介護認定者 -

	肢体	視覚	複数:		計
			聴覚	肢体+ 他	
遠くへも一人で	18 47.4%	2 25.0%	23 43.4%	0 0.0%	43 43.0%
近くなら一人で	16 42.1%	5 62.5%	21 39.6%	1 100%	43 43.0%
誰かと一緒に	1 2.6%	1 12.5%	1 1.9%	0 0.0%	3 3.0%
外は歩いていない	3 7.9%	0 0.0%	8 15.1%	0 0.0%	11 11.0%
計	38 100%	8 100%	53 100%	1 100%	100 100%

障害等級との関連性は屋外歩行ほど著明ではないが、1級では4割弱の「自分では動き回れない」がおり、自立度の低下の傾向は明らかであった。2級以下でも等級が進む（障害の低下が軽くなる）につれて「壁や家具を伝わって」が減少し、「何もつかまらずに」が増加する傾向は一貫していた。

3級と4級、5級と6級の傾向は近く、逆に2級と3級の間、4級と5級の間ギャップがあることは屋外歩行の場合と同様であったが、1級と2級の間にはかなりの差があり、その点で屋外歩行とは異なっていた。

要介護認定者全体では「壁や家具を伝わって」が最も多く約4.5割を占め、「自力では動き回れない」がそれに次いでいた。障害等級との関連は1級で著しく低い他は、2-6級の間では大きな差はなかった。

(2) 視覚障害

表 2-2-2-(1)、2-2-2-(2)に示すとおりで、非要介護認定者全体では「何もつかまらずに」が最も多く約7割弱を占め、「壁や家具を伝わって」が約2.5割でそれに次いでいた。障害等級との関連では1級でやや低い傾向がある他は一定の傾向を見出せなかった。

要介護認定者全体では「壁や家具を伝わ

て」が最も多く約5割弱を占め、「何もつかまらずに」がそれに次いでいた。障害等級との関連は1級以外は例数が少なく、一定の傾向は見出せなかった。

(3) 聴覚障害

表 2-2-3-(1)に示すとおりで、非要介護認定者全体では「何もつかまらずに」が最も多く約8割強を占め、「壁や家具を伝わって」がそれに次いでいた。障害等級との関連は2級の一部に「自力では動き回れない」がやや多かった他は等級との関係はほとんどみられなかった。

要介護認定者は例数が少ない(39名)ため検討を省いた。

(4) 呼吸機能障害

表 2-2-4-(1)に示すとおりで、非要介護認定者全体では「何もつかまらずに」が最も多く約8割弱を占め、「壁や家具を伝わって」がそれに次いでいた。等級との関係はほとんどみられなかった。

要介護認定者は例数が少ない(27名)ため検討を省いた。

(5) 心臓機能障害

表 2-2-5-(1)、2-2-5-(2)に示すとおりで、非要介護認定者全体では「何もつかまらずに」

が最も多く約 8 割強を占め、「壁や家具を伝わって」がそれに次いでいた。障害等級との関連は、1 級が 3、4 級よりやや低い傾向があったが、著明ではなかった。

要介護認定者全体では「何もつかまらずに」が最も多く約 5 割弱を占め、「壁や家具を伝わって」がそれに次いでいた。障害等級との関連は、1 級以外は例数が少なく、著明な傾向はなかった。

(6) その他の障害

ぼうこう又は直腸機能障害（非要介護認定

者 32 名、要介護認定者 17 名）、腎臓機能障害（非要介護認定者 42 名、要介護認定者 22 名）、平衡機能障害（非要介護認定者 2 名）、音声・言語・そしゃく機能障害（非要介護認定者 7 名、要介護認定者 3 名）、肢体不自由によるその他の障害が合併したもの（非要介護認定者 18 名、要介護認定者 18 名）、それ以外の複数障害の合併（非要介護認定者 13 名、要介護認定者 8 名）については、いずれも少数のため検討を省いた。

表 2-1. 自宅内歩行：一般高齢者（身体障害者手帳非所持者）

	非要介護	要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
何もつかまらずに	13,063 88.5%	285 50.8%	314 34.8%	129 31.3%	29 27.9%	19 21.3%	1 1.9%	13,840 82.0%
壁や家具を伝わって	1,420 9.6%	264 47.1%	533 59.1%	222 53.9%	34 32.7%	10 11.2%	1 1.9%	2,484 14.7%
壁や家具を伝わって+	58 0.4%	2 0.4%	3 0.3%	2 0.5%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	66 0.4%
誰かと一緒に	94 0.6%	2 0.4%	16 1.8%	16 3.9%	17 16.3%	10 11.2%	2 3.7%	157 0.9%
誰かと一緒になら	48 0.3%	6 1.1%	23 2.5%	23 5.6%	4 3.8%	7 7.9%	1 1.9%	112 0.7%
ずり這い等で動いている	78 0.5%	2 0.4%	13 1.4%	20 4.9%	19 18.3%	43 48.3%	49 90.7%	224 1.3%
自力では動き回れない								
計	14,761 100%	561 100%	902 100%	412 100%	104 100%	89 100%	54 100%	16,883 100%

表 2-2-1-(1). 自宅内歩行：肢体不自由，等級比較－非要介護認定者－

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
何もつかまらずに	10 22.2%	29 35.8%	75 61.5%	120 65.9%	75 78.9%	32 84.2%	341 60.6%
壁や家具を伝わって	10 22.2%	44 54.3%	29 23.8%	49 26.9%	18 18.9%	5 13.2%	155 27.5%
壁や家具を伝わって+	0 0.0%	0 0.0%	2 1.6%	4 2.2%	0 0.0%	1 2.6%	7 1.2%
誰かと一緒に	4 8.9%	5 6.2%	8 6.6%	4 2.2%	1 1.1%	0 0.0%	22 3.9%
誰かと一緒になら	4 8.9%	3 3.7%	4 3.3%	2 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	13 2.3%
ずり這い等で動いている	17 37.8%	0 0.0%	4 3.3%	3 1.6%	1 1.1%	0 0.0%	25 4.4%
自力では動き回れない							
計	45 100%	81 100%	122 100%	182 100%	95 100%	38 100%	563 100%

表 2-2-1-(2). 自宅内歩行: 肢体不自由, 等級比較—要介護認定者—

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
何もつかまらずに	4	20	18	18	6	3	69
	4.1%	12.9%	26.1%	21.7%	20.0%	25.0%	15.4%
壁や家具を伝わって	16	80	39	47	18	6	206
	16.3%	51.6%	56.5%	56.6%	60.0%	50.0%	46.1%
壁や家具を伝わって+	1	1	0	1	0	0	3
誰かと一緒に	1.0%	0.6%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.7%
誰かと一緒なら	9	4	3	6	2	1	25
	9.2%	2.6%	4.3%	7.2%	6.7%	8.3%	5.6%
ずり這い等で動いている	2	14	3	5	1	1	26
	2.0%	9.0%	4.3%	6.0%	3.3%	8.3%	5.8%
自力では動き回れない	66	36	6	6	3	1	118
	67.3%	23.2%	8.7%	7.2%	10.0%	8.3%	26.4%
計	98	155	69	83	30	12	447
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 2-2-2-(1). 自宅内歩行: 視覚障害, 等級比較—非要介護認定者—

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
何もつかまらずに	13	20	13	16	11	4	77
	40.6%	80.0%	81.3%	84.2%	84.6%	50.0%	68.1%
壁や家具を伝わって	15	4	2	3	2	3	29
	46.9%	16.0%	12.5%	15.8%	15.4%	37.5%	25.7%
誰かと一緒なら	2	1	1	0	0	1	5
	6.3%	4.0%	6.3%	0.0%	0.0%	12.5%	4.4%
ずり這い等で動いている	1	0	0	0	0	0	1
	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
自力では動き回れない	1	0	0	0	0	0	1
	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
計	32	25	16	19	13	8	113
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 2-2-2-(2). 自宅内歩行: 視覚障害, 等級比較—要介護認定者—

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
何もつかまらずに	7	4	0	1	1	0	13
	21.2%	26.7%	0.0%	33.3%	100%	0.0%	22.0%
壁や家具を伝わって	15	7	4	1	0	1	28
	45.5%	46.7%	80.0%	33.3%	0.0%	50.0%	47.5%
誰かと一緒なら	1	0	0	0	0	1	2
	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	3.4%
ずり這い等で動いている	5	3	1	1	0	0	10
	15.2%	20.0%	20.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.9%
自力では動き回れない	5	1	0	0	0	0	6
	15.2%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.2%
計	33	15	5	3	1	2	59
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 2-2-3-(1). 自宅内歩行:聴覚障害,等級比較-非要介護認定者-

	2級	3級	4級	6級	計
何もつかまらずに	30	13	36	45	124
	76.9%	92.9%	81.8%	84.9%	82.7%
壁や家具を伝わって	5	1	8	7	21
	12.8%	7.1%	18.2%	13.2%	14.0%
壁や家具を伝わって+	1	0	0	0	1
誰かと一緒に	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
誰かと一緒になら	1	0	0	0	1
	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
自力では動き回れない	2	0	0	1	3
	5.1%	0.0%	0.0%	1.9%	2.0%
計	39	14	44	53	150
	100%	100%	100%	100%	100%

表 2-2-4-(1). 自宅内歩行:呼吸機能障害,等級比較-非要介護認定者-

	1級	3級	4級	計
何もつかまらずに	23	28	27	78
	82.1%	71.8%	84.4%	78.8%
壁や家具を伝わって	4	7	5	16
	14.3%	17.9%	15.6%	16.2%
誰かと一緒になら	0	3	0	3
	0.0%	7.7%	0.0%	3.0%
ずり這い等で動いている	0	1	0	1
	0.0%	2.6%	0.0%	1.0%
自力では動き回れない	1	0	0	1
	3.6%	0.0%	0.0%	1.0%
計	28	39	32	99
	100%	100%	100%	100%

表 2-2-5-(1). 自宅内歩行:心臓機能障害,等級比較-非要介護認定者-

	1級	3級	4級	計
何もつかまらずに	81	61	35	177
	77.1%	88.4%	85.4%	82.3%
壁や家具を伝わって	19	6	6	31
	18.1%	8.7%	14.6%	14.4%
壁や家具を伝わって+	1	1	0	2
誰かと一緒に	1.0%	1.4%	0.0%	0.9%
誰かと一緒になら	2	1	0	3
	1.9%	1.4%	0.0%	1.4%
ずり這い等で動いている	1	0	0	1
	1.0%	0.0%	0.0%	0.5%
自力では動き回れない	1	0	0	1
	1.0%	0.0%	0.0%	0.5%
計	105	69	41	215
	100%	100%	100%	100%

表 2-2-5-(2). 自宅内歩行:心臓機能障害, 等級比較—要介護認定者—

	1 級	3 級	4 級	計
何もつかまらずに	17 43.6%	6 42.9%	7 87.5%	30 49.2%
壁や家具を伝わって	18 46.2%	8 57.1%	1 12.5%	27 44.3%
誰かと一緒なら	2 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.3%
ずり這い等で動いている	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%
自力では動き回れない	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%
計	39 100%	14 100%	8 100%	61 100%

2) 同一等級についての各種障害間比較

(1) 1 級

表 2-3-1(1)にみるとおり、屋外歩行ほど著明ではないが、肢体不自由において自宅内歩行の自立度が最も低く、視覚障害がそれに次ぎ、そのほかの呼吸機能障害、心臓機能障害、腎臓機能障害などでは問題が比較的少ないという類似の傾向をみることができる。

要介護認定者においては表 2-3-1(2)のように、20 名以下の障害種別を除けば、肢体不自由で自立度が著しく低く、視覚障害がそれに次ぎ、心臓機能障害がもっともよいという傾向は同じである。

(2) 2 級

2 級では表 2-3-2-(1)の通り、非要介護認定者では肢体不自由でもっとも自立度が低く視覚障害と聴覚障害ではそれより軽かった。

表 2-3-2-(2)の要介護認定者では肢体不自由での自立度の低さはより著明であった。

(3) 3 級

3 級では表 2-3-3-(1)にみるように非要介護認定者では 20 名以下のものを除けば、肢体不自由→呼吸機能障害→心臓機能障害の順に自

立度が高い傾向があった。

要介護認定者では肢体不自由以外は例数が少なく一定の傾向を見出すことは困難であった(表 2-3-2-(2))。

(4) 4 級—6 級

4 級では表 2-3-4-(1)にみるように、20 名以下のものを除けば肢体不自由で自立度をもっとも低く、その他聴覚障害→呼吸機能障害→心臓機能障害の順に僅かずつ高くなっていく傾向があった。しかし、要介護認定者では肢体不自由以外の例数が少ないため一定の傾向を見出せなかった。

5 級の非要介護認定者では肢体不自由と視覚障害のみであり、しかも後者は例数が少ないため一定の傾向は見出せなかった(表 2-5-1-(1))。要介護認定者は全体の例数が少ない(32 名)ため検討を省いた。

6 級の非要介護認定者はでも例数の少ない項目が多く、一定の傾向を見出すことは困難であった(表 2-3-6-(1))。6 級の要介護認定者は例数が少なく(26 名)、検討を省いた。

表 2-3-1-(1). 自宅内歩行:1 級, 障害別比較—非要介護認定者—

	肢体	視覚	呼吸	心臓	腎臓	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
何もつかまらずに	10 22.2%	13 40.6%	23 82.1%	81 77.1%	22 68.8%	2 33.3%	6 100%	157 61.8%
壁や家具を伝わって	10 22.2%	15 46.9%	4 14.3%	19 18.1%	7 21.9%	3 50.0%	0 0.0%	58 22.8%
壁や家具を伝わって+ 誰かと一緒に	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%
誰かと一緒になら	4 8.9%	2 6.3%	0 0.0%	2 1.9%	2 6.3%	1 16.7%	0 0.0%	11 4.3%
ずり這い等で動いてい る	4 8.9%	1 3.1%	0 0.0%	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 2.4%
自力では動き回れない	17 37.8%	1 3.1%	1 3.6%	1 1.0%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	21 8.3%
計	45 100%	32 100%	28 100%	105 100%	32 100%	6 100%	6 100%	254 100%

表 2-3-1-(2). 自宅内歩行:1 級, 障害別比較—要介護認定者—

	肢体	視覚	呼吸	心臓	ぼうこ う又は 直腸	腎臓	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
何もつかまらずに	4 4.1%	7 21.2%	2 25.0%	17 43.6%	1 50.0%	11 55.0%	3 37.5%	0 0.0%	45 21.2%
壁や家具を伝わって	16 16.3%	15 45.5%	4 50.0%	18 46.2%	1 50.0%	6 30.0%	4 50.0%	2 50.0%	66 31.1%
壁や家具を伝わって+ 誰かと一緒に	1 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
誰かと一緒になら	9 9.2%	1 3.0%	1 12.5%	2 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 6.1%
ずり這い等で動いてい る	2 2.0%	5 15.2%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	1 5.0%	1 12.5%	1 25.0%	11 5.2%
自力では動き回れない	66 67.3%	5 15.2%	1 12.5%	1 2.6%	0 0.0%	2 10.0%	0 0.0%	1 25.0%	76 35.8%
計	98 100%	33 100%	8 100%	39 100%	2 100%	20 100%	8 100%	4 100%	212 100%

表 2-3-2-(1). 自宅内歩行:2 級, 障害別比較—非要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	複数: 肢体+ 他	複数: その他	計
何もつかまらずに	29 35.8%	20 80.0%	30 76.9%	1 50.0%	1 33.3%	81 54.0%
壁や家具を伝わって	44 54.3%	4 16.0%	5 12.8%	1 50.0%	2 66.7%	56 37.3%
壁や家具を伝わって+ 誰かと一緒に	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%
誰かと一緒になら	5 6.2%	1 4.0%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	7 4.7%
ずり這い等で動いてい る	3 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.0%
自力では動き回れない	0 0.0%	0 0.0%	2 5.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.3%
計	81 100%	25 100%	39 100%	2 100%	3 100%	150 100%

表 2-3-2-(2). 自宅内歩行:2級, 障害別比較—要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	複数:		計
				肢体+	他	
何もつかまらずに	20	4	2	0		26
	12.9%	26.7%	25.0%	0.0%		14.1%
壁や家具を伝わって	80	7	6	6		99
	51.6%	46.7%	75.0%	100%		53.8%
壁や家具を伝わって+	1	0	0	0		1
誰かと一緒に	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%		0.5%
誰かと一緒なら	4	0	0	0		4
	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%		2.2%
ずり這い等で動いている	14	3	0	0		17
	9.0%	20.0%	0.0%	0.0%		9.2%
自力では動き回れない	36	1	0	0		37
	23.2%	6.7%	0.0%	0.0%		20.1%
計	155	15	8	6		184
	100%	100%	100%	100%		100%

表 2-3-3-(1). 自宅内歩行:3級, 障害別比較—非要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	呼吸	心臓	ぼうこう う又は 直腸	腎臓	音声・ 言語・ そしゃく	複数:		計
									肢体+	その他	
何もつかまらずに	75	13	13	28	61	6	4	5	2	2	209
	61.5%	81.3%	92.9%	71.8%	88.4%	100%	80.0%	83.3%	50.0%	66.7%	73.6%
壁や家具を伝わって	29	2	1	7	6	0	1	1	2	0	49
	23.8%	12.5%	7.1%	17.9%	8.7%	0.0%	20.0%	16.7%	50.0%	0.0%	17.3%
壁や家具を伝わって+	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
誰かと一緒に	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
誰かと一緒なら	8	1	0	3	1	0	0	0	0	0	13
	6.6%	6.3%	0.0%	7.7%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%
ずり這い等で動いている	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	3.3%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
自力では動き回れない	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	1.8%
計	122	16	14	39	69	6	5	6	4	3	284
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 2-3-3-(2). 自宅内歩行:3級, 障害別比較—要介護認定者—

	肢体	視覚	聴覚	呼吸	心臓	ぼうこう う又は 直腸	腎臓	平衡機 能	音声・ 言語・ そしゃく	複数:		計
										肢体+	その他	
何もつかまらずに	18	0	2	3	6	0	0	0	1	0	0	30
	26.1%	0.0%	28.6%	25.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	25.6%
壁や家具を伝わって	39	4	4	7	8	1	1	2	2	1	2	71
	56.5%	80.0%	57.1%	58.3%	57.1%	100%	100%	100%	66.7%	100%	100%	60.7%
誰かと一緒なら	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	4.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%
ずり這い等で動いている	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	4.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%
自力では動き回れない	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8
	8.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%
計	69	5	7	12	14	1	1	2	3	1	2	117
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%